

仙人通信 223 天覧山(197m)・多峰主山(270.8m)

天覧山は飯能駅の北西に位置し、明治16年に天皇陛下が陸軍を視察された際、開口一番に「ああ一番に良い景色」と言われた事から愛宕山・羅漢山から替えられた山名である。一方、多峰主(とうのす)山は、秩父の峰々が望める事に由来した三等三角点の山である。駅近くの市民会館の駐車場に車を置き、能仁寺の門前を東に100m程進んだ点にある登山口の標識に従い、お寺の裏山に登る感じでのスタートである。簡易舗装されたコースを10分程進むとトイレのある中段の広場である。ここから山路となり5分程登ると分岐があり、左の岩場コースには、徳川綱吉の生母である桂昌院が病に倒れたおりに能仁寺の和尚に拝んで頂いた事で、健康になった事から十六羅漢が祀られたとある。更に岩のコースを10分程進むと山頂だ。現在はコンクリート製の展望台があり、南面が開けて綺麗である。林の中を丸太やコンクリート棒の階段を下る事15分程で、西の谷の荒れ果てた田のある低地に出る。200m程進むと左手に登るコースとなる。ここからはしっかりした急な登りだ。ここが源義経の生母である常盤御前が、景色の良さに振り返り振り返り登ったとされる「見返り坂」であるが、現在は檜等の林で景色は望めなく残念・・・貯水槽へ下るコースを過ぎ、緩やかな尾根道を数分進むと、雨乞池へ進む女コースと別れ、岩で出来た階段の男コースを登り詰めること25分程で多峰主山の山頂である。

東側の一部を除き、300°近い展望のはずであるが、雨上がりと春霞が重なりいまいつだ。伊豆ヶ岳がやっと確認できる程度と残念だ。ベンチに座り休憩していると、メジロに赤い羽根が着いたような外来種のソウシチョウが足元へ飛んで来て、落とした食料の粕を啄ばんでくれた。何と10羽近い量である。何か癒された感じだ。

休憩後、永田に向かうコースを13分程下ると、左下の雨乞池に向T字路となり5分程登ると御嶽八幡神社(おんたけさん)である。直ぐ下がロッククライミングの岩場で展望が開けているも霞んでいた。雨乞池の見える所まで戻り、黒田直邦の墓を經由して雨乞池である。山の上にはありながら水枯れをしない池で地元の信仰地であったようだ。

ここからは女坂・見返り坂を戻り、天覧山からの下山ポイントに進み、民家の間を抜けて能仁寺まで50分だ。能仁寺は幕末時に彰義隊が政府軍と戦った所で、その時に焼失したがその後再建された物とある。寺の前には当時に偲ぶ瓦等が置かれていた。

駐車場の車に戻った2時間50分(10000歩)の歴史に触れられた小さな山旅でした。

駐車場の先の市立博物館に立ち寄り、石器時代から現在までの飯能市の歴史に触れ、充たされて帰路に着きました。

(R4.3. 3)

天覧山



見返り坂



多峰主山



雨乞池

